

令和3年6月28日

内閣府特命担当大臣                      河野 太郎 様  
(新型コロナウイルス感染症ワクチン接種担当)  
厚生労働大臣                              田村 憲久 様

埼玉県知事 大野 元裕

日ごろ、新型コロナウイルスワクチンの確保及びワクチン接種に関する各種支援策の整備などに御尽力いただいていることに感謝を申し上げます。

新型コロナウイルスワクチン接種については、現在7月末までの高齢者への接種完了の目標を達成すべく、県、市町村、県医師会が一丸となって取り組んでおります。本県では、全国に先駆けて、県営の大規模集団接種会場を運営しているほか、県と県医師会が協力して接種能力の掘り起こしを行った結果、1日平均6万回の接種能力を確保いたしました。

この接種能力を、一般接種においても活用し、1日でも早く、1人でも多くの県民にワクチンを接種していただくことが、長引く新型コロナウイルス感染症との闘いを収束に導く唯一の手段だと思料するところです。

他方、6月23日(水)に行われた大臣会見において、自治体の大規模接種会場や職域接種での活用が推奨されていた武田/モデルナ社製のワクチンについて、新規の申請を休止することが発表され、市町村や企業は大変困惑しております。

ワクチン接種の現場を預かる者の一人として、以下の事項について格段の御配慮をお願いいたします。

#### 記

- 1 本県を含め首都圏では感染再拡大の予兆も見られており、オリンピック、パラリンピックの開催を控え、人流の増加も懸念される状況です。今後のワクチンの配分にあたっては、全国一律の基準ではなく人口が多く感染リスクの高い首都圏に厚く配分していただきたい。
- 2 第8クールまでに市町村に配分されたワクチンは既に高齢者用として接種の予約が済んでいるワクチンであり、いわゆる「在庫」として接種予定のないワクチンは一切ありません。したがって一般接種の開始に向けて、ワクチン配

分量が決まらなければ、市町村は予約枠の設定もできない状況です。一刻も早く第11クール以降の配分計画を示していただきたい。今後の接種可能回数は、接種能力の掘り起こしにより、これまでの接種実績より数段多くなっていることから、掘り起こした接種能力を最大限に活用するためにも市町村が希望する量のワクチンの配分をいただきたい。

3 武田モデルナ社のワクチンの活用については、令和3年5月25日の都道府県向け説明会において、まずは自治体の大規模接種会場、続いて職域接種への拡大が方針として示されています。予防接種法に基づけば予防接種は自治体が行うべきものであり、それを補完する職域接種が自治体の接種を妨げることがあってはならないと思料するところ、この方針に従って、自治体の大規模接種会場に対し、最優先でワクチンの配分をしていただきたい。

4 ワクチン接種に対する不安による不接種を縮減させるべく、ワクチン接種後の死亡者に関する評価については、一律に「因果関係不明」とするのではなく、法に基づく唯一の死因特定権者である死亡診断書に責任を負う医師の所見を併記し、その所見を覆すエビデンスがある場合には、これを明示していただきたい。